

2008年度第2四半期決算説明会



東洋紡
取締役社長
坂元龍三

2008年度上半期決算のポイント

- 上半期は大幅減益。構造改革は進展
 - － 原燃料高の影響大。工業用フィルム、医用膜、アクリル繊維が苦戦
 - － 構造改革および低価法厳格適用により、特別損失を計上
- 下半期は、景気減速感強まる中、上半期並み事業利益確保
 - － 包装用フィルム、ダイニーマ、メディカル、環境分野の需要は底堅い
 - － 価格転嫁効果、コストダウン・経費削減徹底を見込む
- 環境悪化による構造改革の追加実施で、当期利益は下方修正
- 足下を固め、成長の布石を打つ

目次

I

2008年度第2四半期決算概況

II

2008年度業績予想

III

訴訟関連情報

補足資料

I . 2008年度第2四半期決算概況

(1) 決算概要

- ・原燃料高と工業用フィルム、医用膜、アクリル繊維苦戦で減益
- ・構造改革の手を緩めず、ノンコア事業を大幅削減

(億円)

	07上	08上			増 減		予想値 (8/25)
		Q1	Q2		金額	%	
売上高	2,134	971	1,054	2,025	-110	-5.1%	2,000
営業利益	139	42	55	97	-42	-30.4%	100
営業利益率(%)	6.5%	4.3%	5.2%	4.8%	-	-	5.0%
経常利益	115	29	38	68	-47	-41.1%	75
当期純利益	55	-47	-9	-56	-112	-201.1%	-50
減価償却費	92	-	-	95	+3	+3.1%	
設備投資	92	-	-	114	+22	+24.0%	
EBITDA	231	-	-	192	-40	-17.1%	

(2) 特別損失

- 構造改革を計画通り実行し、リスク資産を圧縮
- 棚卸資産低価法の厳格適用で資産効率アップを図る

		(億円)
		08上
特別 損失	棚卸資産評価損	41
	構造改善関係費 *1	107
	その他 *2	45
	合 計	192

* 1 : 関係会社の事業撤収、解散による資産整理・処分等

* 2 : その他には、固定資産処分・売却損、訴訟関連損失等を含む

(3) 財務指標

- 海外子会社の再評価準備金取崩等もあり自己資本減少
- 設備投資の支払い増などにより借入金増加

(億円)

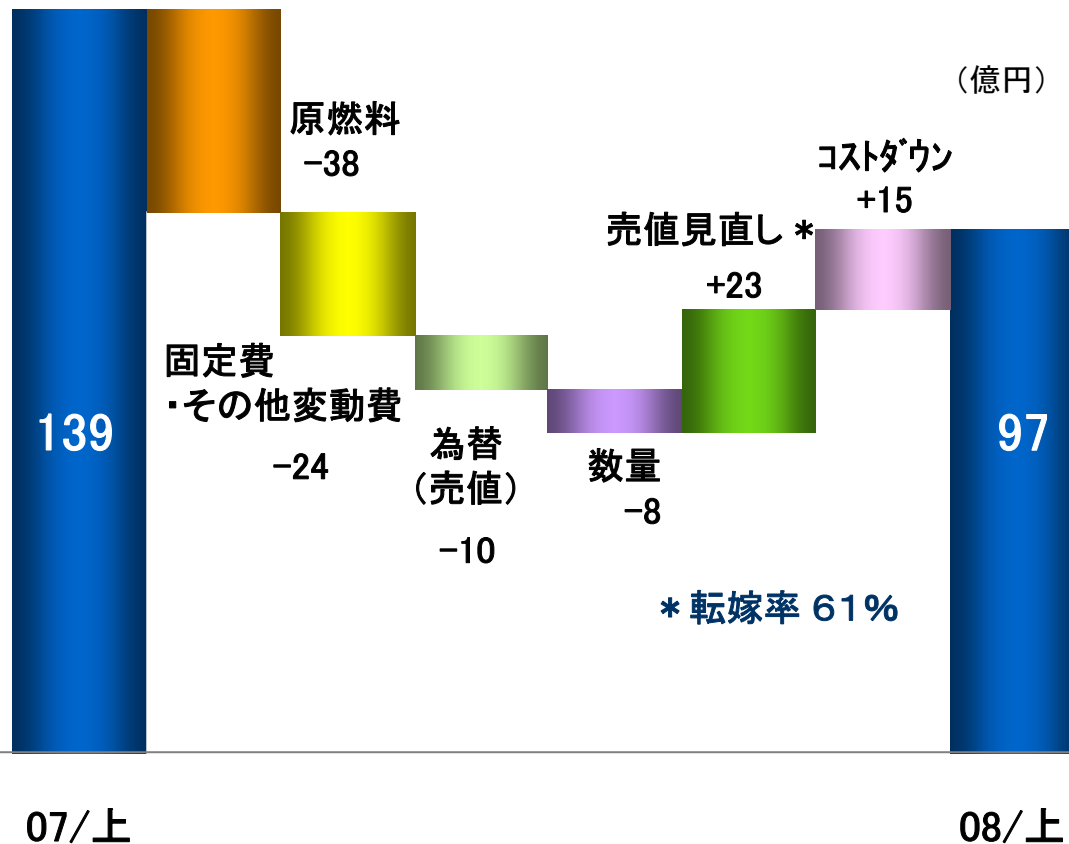
	07/9末	08/3末	08/9末	前期比増減
総資産	5,097	4,945	4,844	-101
(営業利益ROA)	5.5%	5.5%	4.0%	
自己資本 *	1,357	1,297	1,124	-172
(自己資本比率)	26.6%	26.2%	23.2%	
有利子負債	1,934	1,788	1,972	+183
D/E レシオ	1.43	1.38	1.75	-

*少数株主持分除く

(4) 営業利益増減要因分析

- 4年連続の原燃料高騰を跳ね返せず
- 価格転嫁進展も、一部製品は競争激化で価格ダウン

【07年度上半期→08年度上半期】



	07上	08上
国産ナフサ (受入ベース) (千円/kl)	59 (53)	78 (69)
円レート (¥/\$)	119	106

(5) セグメント別

- 産業マテリアル健闘。フィルム・機能樹脂、ライフサイエンス苦戦
- 繊維/その他事業の事業絞りこみ進展

(億円)

	売上高			営業利益		
	07上	08上	増減	07上	08上	増減
フィルム・機能樹脂	656	697	+41	73	48	-25
産業マテリアル	373	416	+43	27	29	+2
ライフサイエンス	163	170	+7	26	19	-7
スペシャルティ計	1,192	1,283	+91	126	96	-30
衣料繊維	724	599	-125	20	10	-9
その他	219	143	-76	12	9	-3
消去・全社	-	-	-	-18	-18	-0
合 計	2,134	2,025	-110	139	97	-42

(6) セグメント別 ① フィルム・機能樹脂

液晶・光学用フィルムは事業環境悪化により減益
包装用フィルム、工業用接着剤「バイロン」は堅調

	07上	08上		計	増減
		Q1	Q2		
売上高	656	346	351	697	+41
営業利益	73	24	24	48	-25
(営業利益率)	11.1%	7.1%	6.8%	6.9%	-
減価償却費	34	-	-	35	+1
使用総資本	1,281	-	-	1,379	+97
(営業利益ROA)	11.4%	-	-	7.0%	-

(億円)

● 工業用フィルム

海外での競争激化、ユーザーの
生産調整・原料高で苦戦

● 包装用フィルム

出荷堅調。価格転嫁も実現

● 機能樹脂

バイロンは電子材料用途で拡大
エンブラは数量増も利益率悪化

② 産業マテリアル

ダイニーマは、増設効果により増収増益
スパンボンド、タイヤコードは原料高で苦戦

(億円)

	07上	08上			増減
		Q1	Q2	計	
売上高	373	201	215	416	+43
営業利益	27	13	16	29	+2
(営業利益率)	7.3%	6.4%	7.4%	6.9%	-
減価償却費	18	-	-	19	+0
使用総資本	803	-	-	788	-14
(営業利益ROA)	6.8%	-	-	7.3%	-

● **スーパー繊維「ダイニーマ」**
安全手袋等需要拡大続く
生産能力倍増を計画(2010年)

● **エアバッグ用基布**
装着率の上昇もあり出荷堅調
価格転嫁進展

● **機能フィルター**
環境、自動車向けで出荷堅調
溶剤回収装置で拡大

③ ライフサイエンス

医用膜は、Q2で挽回するも減益

バイオは、売上増も為替の影響により採算悪化

(億円)

	07上	08上			増減
		Q1	Q2	計	
売上高	163	74	96	170	+7
営業利益	26	5	14	19	-7
(営業利益率)	15.9%	7.3%	14.4%	11.3%	-
減価償却費	14	-	-	17	+2
使用総資本	361	-	-	362	+1
(営業利益ROA)	14.4%	-	-	10.6%	-

● 医用膜

薬価改定に伴う在庫調整で数量ダウン
IV型への切替え進展

● バイオ、医薬

診断薬用酵素は堅調持続
医薬は、受託案件増加

● アクア膜

シュケイク案件の出荷により増収

④ 衣料繊維

資産効率重視の経営徹底。使用資本圧縮進む
 アクリル繊維は減産と原料高で減益

(億円)

	07上	08上			増減
		Q1	Q2	計	
売上高	724	289	310	599	-125
営業利益	20	5	5	10	-9
(営業利益率)	2.7%	1.8%	1.7%	1.7%	-
減価償却費	15	-	-	13	-2
使用総資本	1,310	-	-	1,057	-253
(営業利益ROA)	3.0%	-	-	2.0%	-

● アクリル繊維

中国向け輸出大幅減
 生産調整強化

● 東洋紡STC（繊維）

トーブ地は出荷好調も採算悪化
 インナーなど機能衣料に絞り込み

Ⅱ. 2008年度業績予想

(1) 業績予想

- 下半期は、景気減速感強まる中、上半期並みの事業利益を確保
- 環境悪化に伴う構造改革の追加実施で、当期利益は下方修正

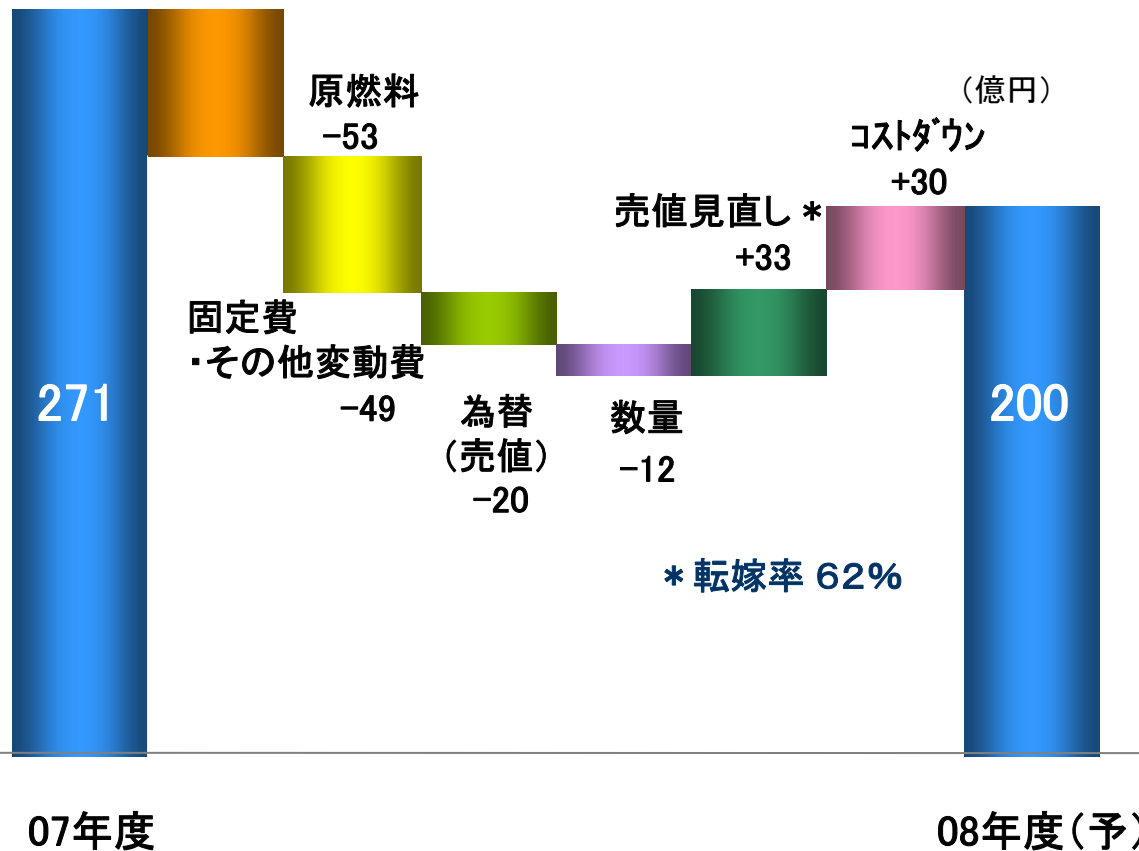
(億円)

	07年度実績	08年度予想			予想値 (8/25)
		上実績	下予想		
売上高	4,314	2,025	2,075	4,100	4,000
営業利益	271	97	103	200	200
営業利益率(%)	6.3%	4.8%	5.0%	4.9%	5.0%
経常利益	210	68	82	150	150
当期純利益	47	-56	6	-50	10
減価償却費	193	95	108	203	
設備投資	225	114	86	200	
EBITDA	463	192	211	403	
為替レート(円/US\$)	114	106	100	103	
国産ナフサ価格(千円/KL)	62	78	50	64	

(2) 営業利益増減要因分析(予想)

・足下の原料価格下落あるも、タイムラグあり

【07年度→08年度(予)】



	07	08(予)
国産ナフサ (受入ベース) (千円/kl)	62 (57)	64 (68)
円レート (¥/\$)	114	103

(3) セグメント別内訳

- ・包装フィルム、ダイニーマ、メディカル、環境分野の需要は底堅い
- ・価格転嫁効果、経費削減に加え、一部事業の数量回復を見込む

(億円)

	売上高				営業利益			
	07年度	08年度予想			07年度	08年度予想		
		上実績	下予想			上実績	下予想	
フィルム・機能樹脂	1,346	697	750	1,447	137	48	48	96
産業マテリアル	761	416	440	856	55	29	28	57
ライフサイエンス	340	170	190	360	51	19	21	40
スペシャルティ計	2,447	1,283	1,380	2,663	244	96	97	193
衣料繊維	1,425	599	580	1,179	38	10	15	25
その他	442	143	115	258	26	9	9	18
消去・全社	—	—	—	—	−37	−18	−18	−37
合 計	4,314	2,025	2,075	4,100	271	97	103	200

(4)これからのアクション

足下を固め、成長の布石を打つ

- 厳しい事業環境を想定。事業構造改革徹底
- 資産効率重視で財務体質の改善を急ぐ
- 研究開発投資は維持。成果を挙げる

当 面 の 課 題	
フィルム・機能樹脂 産業マテリアル ライフサイエンス	・主力事業の挽回 ・開発力強化。進捗管理徹底 ・設備案件厳選(能力増、海外展開)
スペシャルティ	・研究開発投資維持。新規テーマ探索強化
衣料繊維その他	・事業絞込み。エクスラン構造改革
財務体質の改善	資産効率重視。構造改革総仕上げ。借入金圧縮

- ・コストダウン
 - 生産技術革新活動
 - 調達革新
 - 経費見直し

- ・在庫圧縮
 - 景気減速に備え

Ⅲ. 訴訟関連情報

(1) 訴訟関連

<概要>

- ① 2003年6月、ザイロン繊維使用の防弾ベスト事故(米国ペンシルバニア)(貫通事故は1件のみ)
- ② 事故被害者、同種ベスト購入者等が、防弾ベストメーカー、当社に損害賠償請求を提起
- ③ 防弾ベストメーカーの元取締役が米国不正請求禁止法に基づく訴訟を提起、
米国政府(司法省)がこの訴訟に原告として参加
- ④ 事故を起こしたメーカー以外の防弾ベストに関しても、米国政府(司法省)が訴訟を提起
- ⑤ 購入者からの集団訴訟は 原告団との和解成立(和解金等(約44億円)05上特損処理)
事故被害者からの訴訟(PL関連訴訟)も、和解により解決
- ⑥ 弁護士費用 15億円(07年度)、15億円(06年度)

<訴訟状況>

(08.11.5現在)

	クラスアクション	PL関連	政府関係		その他	政府関係
原告	購入者	ペンシルバニアほか 警官	アーカンソー州	米国司法省	セカンドチャンス	ドイツ2州政府
状況	和解成立 (05/10/26)	和解成立 (06/1、06/11、07/1)	訴状受取後 動きナシ	証拠開示手続	証拠開示手続	却下判決 (管轄なし) (07/4/13)
件数	10件	4件	1件	2件	1件	1件

補足資料

補1) 時系列データ

				04年度	05年度	06年度	07年度		08年度	
				実績	実績	実績	上半期実績	実績	上半期実績	対前期増減率
売 上 高	百万円			393,686	401,948	426,666	213,433	431,417	202,471	-5.1%
営 業 利 益	百万円			28,782	29,887	30,435	13,932	27,075	9,690	-30.4%
(営業利益率)				(7.3%)	(7.4%)	(7.1%)	(6.5%)	(6.3%)	(4.8%)	
経 常 利 益	百万円			21,589	24,580	25,342	11,476	21,049	6,762	-41.1%
(経常利益率)				(5.5%)	(6.1%)	(5.9%)	(5.4%)	(4.9%)	(3.3%)	
当 期 純 利 益	百万円			12,207	12,596	13,472	5,546	4,698	-5,605	-201.1%
(当期純利益率)				(3.1%)	(3.1%)	(3.2%)	(2.6%)	(1.1%)	(-2.8%)	
1株当たり当期純利益	円			17.58	18.10	19.32	7.95	6.73	-8.03	-201.1%
自己資本当期純利益率				11.5%	10.8%	10.4%	-	3.6%	-	-
総資産営業利益率				5.6%	5.8%	5.9%	5.5%	5.5%	4.0%	-
総 資 産	百万円			511,813	514,791	513,191	509,652	494,496	484,427	-4.9%
自 己 資 本	百万円			107,518	125,143	133,521	135,660	129,671	112,429	-17.1%
(少数株主持分を除く)										
自 己 資 本 比 率				21.0%	24.3%	26.0%	26.6%	26.2%	23.2%	-
1株当たり純資産	円			154.64	179.59	191.28	194.36	185.79	161.10	-17.1%
有 利 子 負 債	百万円			220,981	206,172	194,239	193,366	178,842	197,166	+2.0%
D / E レ シ オ	倍			2.06	1.65	1.45	1.43	1.38	1.75	-
設 備 投 資 額	百万円			16,395	18,131	15,753	9,188	22,486	11,393	+24.0%
減 価 償 却 費	百万円			15,528	15,656	16,938	9,203	19,274	9,492	+3.1%
研 究 開 発 費	百万円			9,201	10,079	10,426	5,459	10,877	5,332	-2.3%
従 業 員 数	人			11,468	11,705	11,755	11,640	11,885	11,468	-
営業活動によるキャッシュフロー	百万円			30,071	27,299	27,064	13,836	23,282	-4,045	-129.2%
投資活動によるキャッシュフロー	百万円			4,910	-4,011	-2,925	-9,361	-10,193	-11,120	+18.8%
財務活動によるキャッシュフロー	百万円			-37,591	-23,071	-22,439	-6,457	-17,948	12,961	-300.7%

補2) 主な設備投資

事業	投資金額 (億円)	投資内容・能力	稼動時期
液晶光学用PETフィルム	100	+10,000 t / 年	2008年10月
光学用無延伸PPフィルム	20	+4,000 t / 年	2008年10月
ダイニーマ (日本ダイニーマ)	16	+600 t / 年	2008年1月
コーティング設備 (東洋クロス)	15	能力増強	2009年春
ダイニーマ (日本ダイニーマ)	50	能力増強	2010年初、夏
バイオケミカル (機能物質生産)	10	培養設備能力増強	2009年秋
工業用フィルム	100	能力増強、新商品	2010年
光学用無延伸PPフィルム	20	能力増強	2011年
エンジニアリングプラスチック	40	重合・コンパウンド、開発センター	2010年
エレクトロニクス材料 (PAI)	20	事業化・量産化	2009年
エアバッグ用基布	30	原糸・加工能力増強	2009-10年
アクア膜	10	能力増強	2009年

決定済
検討中

補3) 開発が成長の鍵

- 加工型・高機能製品メーカーの強みを追求
- 4つのコア技術(重合、変性、加工、バイオ)駆使

【成長期待する新製品】

事業セグメント	製品	市場ほか
フィルム・機能樹脂	易成型PETフィルム「ソフトシャイン」	自動車、機器
	透明導電フィルム	タッチパネル
	新PET触媒(非重金属)	環境
	ポリアミドイミド耐熱回路材料/接着剤	電子材料
	高耐熱ポリイミドフィルム「ゼノマックス」	次世代電子部品
	燃料電池膜(非フッ素系)	DM燃料電池
産業マテリアル	新強力ポリエチレン繊維「ツヌーガ」	安全手袋
ライフサイエンス	診断システム「U-スキャナー2」	腎機能測定
	機能膜の新用途展開	上水膜ほか

補4) 中期経営計画(2008／5開示)

(億円)

	08年度中期経営計画			今回予想 (08年度)
	07年度	08年度	10年度目標	
売上高	4,314	4,350	4,600	4,100
うちスペシャルティ	2,447	2,630	3,000	2,663
営業利益	271	250	300	200
(率)	6.3%	5.7%	6.5%	
うちスペシャルティ	244	233	280	193
経常利益	210	200	250	150
当期利益	47	100	130	-50
営業利益ROA	5.5%	5%	7%	-
D／Eレシオ	1.38	1.3	1.0	-

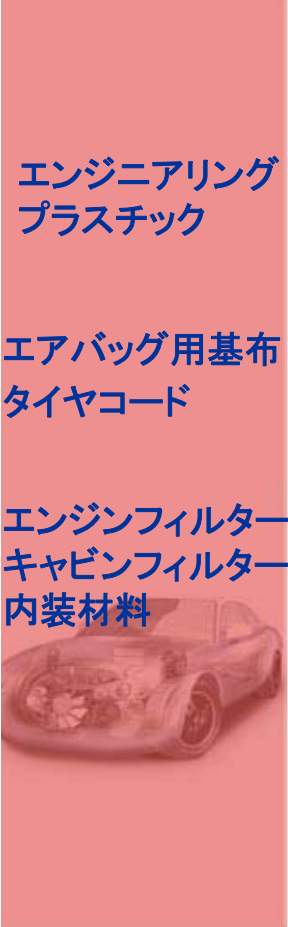
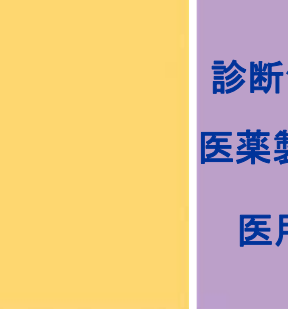
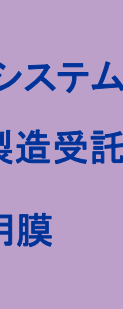
補5) 営業利益増減要因(半期別)

		(億円)					
		07上	08上	07下	08下(予)	07年度	08年度(予)
営業利益		139	97	132	103	271	200
前年同期比		-42		-29		-71	
ナフサ (千円/kl)		59	78	64	50	62	64
為替 (円/\$)		119	105	108	100	114	103

【07→08 増減因 前年同期比】

		(億円)		
		07上→08上	07下→08下(予)	07→08(予)
原燃料アップ		-38	-15	-53
固定費・その他変動費増		-24	-25	-49
為替(売値)		-10	-10	-20
数量差		-8	-4	-12
売値見直し		+23	+10	+33
コストダウン		+15	+15	+30
計		-42	-29	-71
(転嫁率)		61%	67%	62%

補6) 展開する5つの市場

セグメント／事業		市場	自動車	電子・ 情報表示	環 境	生活 安全	ライフ サイエンス
フィルム・ 機能樹脂	機能フィルム						
	機能樹脂						
産業 マテリアル	機能ファイバー						
	スーパー繊維						
	機能フィルター 不織布						
ライフ サイエンス	バイオ						
	医薬						
	機能膜						
07:スペシャルティ売上高(億円)			530	400	230	900	320

本資料取扱い上のご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡績株式会社